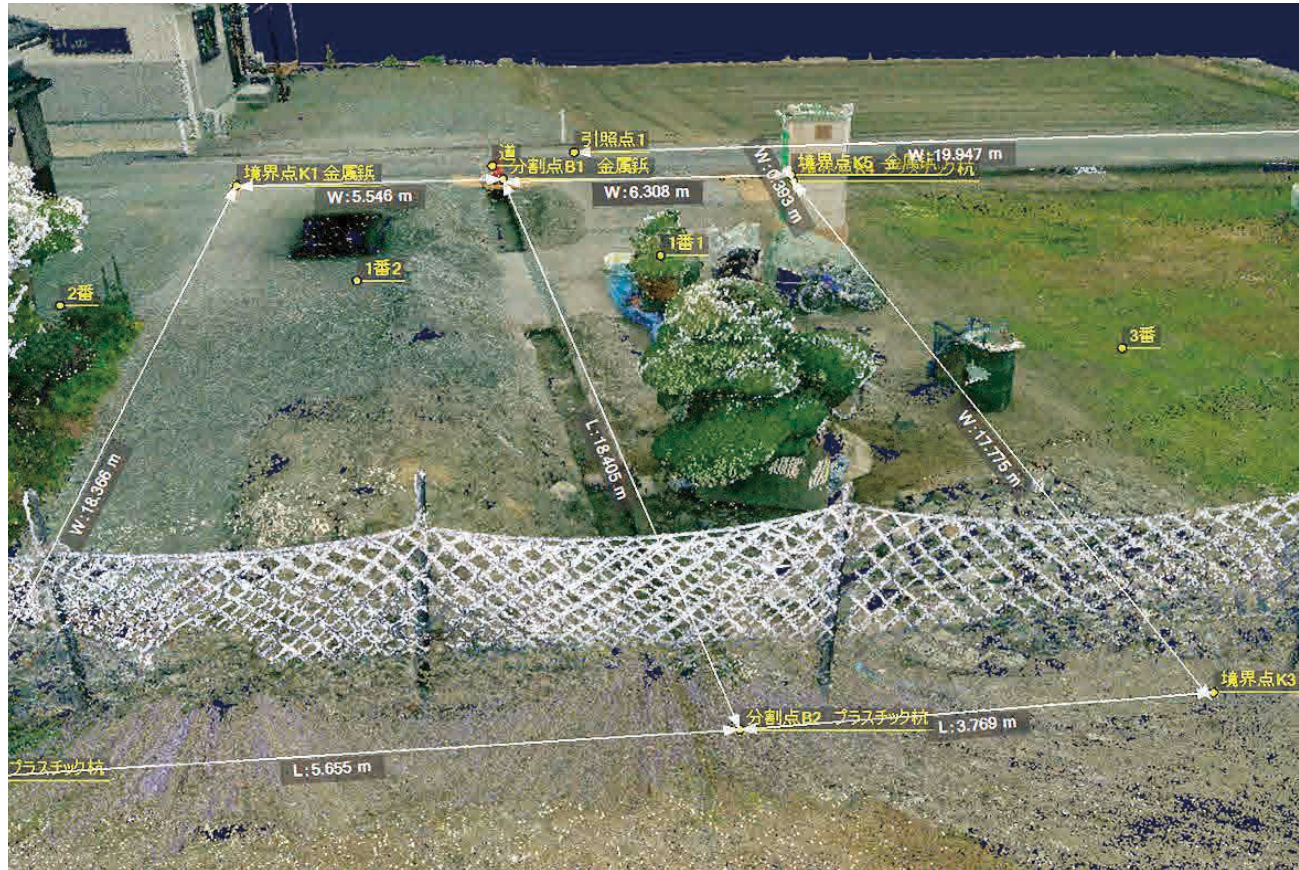


土地家屋調査士あらまき事務所

3Dデータを用いて安心を提供する
土地境界問題未然予防サービス

土地の境界問題を後世に残さず、土地を引き継がせたいと考える顧客が増えています。従来の2次元図面ではトラブルを予防することが困難であるため、可視化できる3次元データを成果品とすることで顧客に安心感を提供します。



3次元データ

不動産を安心して引き継がせたいというニーズに対応

近年、特に不動産を子や孫に安心して引き継がせたいと考えるシニア層から、土地の境界を明確にする調査や測量業務の要請が増えています。しかし、測量などは作業量が多いため、その増加は他の業務にも影響します。そこで、3Dレーザースキャナーとデータをコンピューター上で図化及び編集する3D編集CADの導入により、作業時間の短縮と顧客の境界トラブルの予防を図る成果品を提供し、サービスの付加価値向上等に取り組みました。

自社の業務改善や境界トラブル解決を目指す

今回の設備導入によって、当社の業務フローは大きく変わりつつあります。導入した3Dレーザースキャナーはこれまで2名で1時間以上を要していた測量を、1人数分で行うことが可能です。観測地点もこれまでの数点から10万



代表の荒巻さんご夫妻

点に向上するなど精度や情報量が飛躍的に向上しました。3D編集CADの操作は慣れるのにしばらく時間がかかりましたが、様々な工夫を行う事で、現在では高い品質の3次元データを成果品として提供できるようになりました。地域の業界の先駆けとなる取り組みといえますので、今後は境界トラブルを未然に防ぐ有効な付加価値サービスとして説明やPRを行い、事業化を図っていきたいと考えております。

「何とか解決したい」という
思いがきっかけ

境界トラブルの案件を積極的に受け入れてきたことで、「本当に課題解決に至るにはどうすればよいか」と試行錯誤を積み重ね、今回の取り組みに至りました。3D編集CADの習得は当初考えていたほど簡単ではありませんでしたが、お陰様でメーカーからも技術的な評価を頂くまでになりました。顧客や自社の課題を何とか解決したいという目的意識が、技術の向上や補助事業の活用にも大切であると感じております。

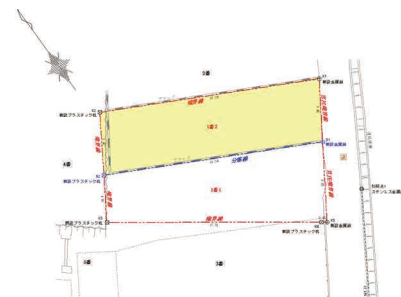


3Dレーザースキャナーによる測量

土地境界のトラブルに積極
対応

当社は土地家屋調査士業を営んでいます。顧客の土地や建物の状況が変わったとき、その内容を不動産登記簿に反映させ権利書の内容と現況を一致させる必要があります。そこで不動産の調査・測量を行い、不動産登記手続きに必要な

な図書を作成し、管轄官庁である法務局へ登記申請を行います。当社の特徴は同業他社があまり取り組まない土地の境界トラブルに積極的に取り組むことで、問題解決のノウハウを培ってきた点にあります。



従来の2次元データ

企業概要

土地家屋調査士あらまき事務所



代表者 代表 荒巻 寛史
所在地 〒832-0042 福岡県柳川市一新町1番地
TEL 0944-32-8787
FAX 0944-32-8798
E-mail armk@mpd.biglobe.ne.jp
業 種 土地家屋調査士業

創 業 2006年
従業員数 0人

